

村上定 ちむらひのさだ 新聞記者、漢詩人、實業家。安政四年八月十日安藝國賀茂郡竹原生れ、昭和七年七月二十日歿（八五七—一九三三）。字靜定、幼名隆吉。號樂樂生、竹浦、竹翁生、菊翁、西東迂史。明治七年東京公遊學。松島瑞嶺の塾僕、宮口裕平のドイツ語を學ぶ。のち東京英學校、同人社塾を經營し、十二年度應義塾に入る。同年、甲府日日新聞に入社を波切りし、熊本、東京、栃木、群馬、神戸の各地で新聞記者として活動。この間、九州改進黨理事（十四年）、下野英學校を設け（十八年）するのほかに、二十二年中上川彦次郎の紹介により、山陽鐵道株式會社に入社。その後三井銀行に轉じ、爾來實業界に過した。傍ら漢詩を能くし、遺作一千餘首があったといふ。

歿後『竹浦詩存』（昭和九年刊）の他、『村上定自叙伝・諸文集』（松崎欣一解説、平成元年三月三十一日慶應義塾福澤研究センター「慶應義塾福澤研究センター資料」）がある。

